

補助事業の実績	2-1
<p>本年度の「補助事業実施計画」に基づいた実績は以下のとおりである。</p> <p>① 「新入生ゼミ別キャリアガイダンス」にて使用するガイドブック（教材）の作成にあたり、1年次から先を見据えたグランドデザインを描くうえでのイメージ図や公務員希望者に対して当該補助金によって整備された本学公務員資料室の利用案内等の新規掲載を行った。更に、自立意識を促進するために、学内においてガイドブックに掲載した講師による低学年キャリア講演会「学び編」・「生き方編」をそれぞれ実施した。</p> <p>② 1年次に対して4月に「キャリアデザインガイド1」を使用した新入生総括ガイダンスを行った。また、5月から7月にかけて学部ごとの1年次ゼミナールの時間に、経営学部16ゼミ・経済学部21ゼミ・国際関係学部20ゼミ（国際関係学部のみ1年次に全員留学のため2年次に実施）・法学部29ゼミにて教員と共にキャリアガイダンスを実施した。その中で職業検索のための「職業マッチングチェックチャート」や「インプレッションゲーム」などワークショップを導入した授業を実施した。</p> <p>③ キャリア・インターンシップでは、事前に提出書類作成・実習先選定のためにグループワークによる自己分析や、ビジネスマナー、インターンシップの心構えの講習、実習（履修21名、受け入れ企業・団体数20社）を行った。またその成果について、一般学生や教職員及び受け入れ企業担当者を対象に、平成21年10月に本学で成果報告会を実施した。</p> <p>④ 職業興味検査（VRT及びVPI）に219名、一般職業適性検査（GATB）に169名の学生が受検した。受検者のほとんどが両検査を活用している。この検査を基に、職業に対する興味と適性を知るヒントを得ることだけでなく、自己理解や具体的な職業を調べるきっかけとなった。また、両検査の受検者を対象に職業探索講座を行い、約60名の学生が職業ハンドブック（OHBY）の活用方法を学んだ。</p> <p>⑤ 本学ホームページに職業対策WEBテスト「コンピテンシー診断」（職業興味検査、一般職業適性検査）を掲載し、340名の学生が受験した。好きな時間に好きな場所で、「自己認識」を深める機会を提供した。これによりそれぞれの学生のやりたいことやできることは何かの「自己認識」を深める機会を提供した。</p> <p>⑥ 職業観を体系的に育成するためにキャリア科目の中で各科目3回外部講師を招き授業を行った。「人生と進路選択」（1年次授業科目）においては、「働くとは」「企業とは」等、学生それぞれの将来設計に役立つように、企業人など適宜、外部講師を招き授業を行った。「キャリアデザイン」（1年次授業科目）においては、外部講師による授業だけでなく、コンピテンシー診断、職業適性検査受検後の解釈や、「ジョブインタビュー」実施後にグループ単位のプレゼンテーションに重点を置き、複数の仕事理解及びコミュニケーション能力の向上を図った。</p> <p>⑦ 本プログラムの取組の実施体制の整備及び取組内容を明確にするため、「キャリア委員会」の中に「キャリア教育評価委員会」を設置した。メンバーは各学部代表教員とキャリア支援課職員14名で構成されている。活動として、本年度キャリア委員会以外にもキャリア教育評価委員会を4回開催し、キャリア関連科目や1年次のゼミナールにおけるキャリアガイダンスの内容を検討・評価し、又、教員にアンケートを実施し、本学におけるキャリア教育の改善に反映させ、学生自立意識の向上に繋げるような科目作りとなるよう取り組んできた。</p> <p>これらを通じて、採択された取組をさらに充実・発展させ、学生が自らの力で職業選択が出来るよう教職員一体となり大学全体で「個の支援」を図ることが、本補助事業の内容である。</p>	

本年度の「補助事業実施計画」に基づいた具体的な成果は以下のとおりである。

- ① ガイドブック（教材）にグランドデザインを描く上でのイメージ図や公務員資料室の利用案内等の新規掲載をすることによって、既存のものより説明がしやすくなり学生の利便性の向上につながった。また、低学年キャリア講演会においては、ガイドブックに掲載した方を講師に招き、社会人の立場から、大学時代に学ぶべきことのアドバイスや生き方についてのメッセージをいただくことができた。これによって、活字にはない生の声を学生に届けることができ、学習計画を策定するうえで参考になると同時に自立意識の向上を図ることができた。
- ② 1年次ゼミナールにおいてワークショップを導入したキャリアガイダンスを実施した。学生の職業意識の向上及び社会人基礎力やコミュニケーション能力を高めることに繋がった。受講した学生からは「グループワークをやることはなかったので、貴重な体験ができてよかった。」「1年生のうちから就職についてしっかり考えていかななくてはならないと感じた。」など、これからの学生生活のデザインを描かせることができ学生の就職意識が向上した。また、積極的にワークショップを導入したことで、社会人基礎力の能力要素やコミュニケーション能力を高める一助となった。
- ③ キャリア・インターンシップに参加し、実社会での就業体験中そして実習後に振り返りを行うことにより、自分自身の現状と社会で求められているものを比較することができ、実習後の学生生活における課題を明確にすることができた。ビジネスマナー等が机上の知識ではなく実践的な知識となった。また、成果報告会を一般学生や教職員及び受け入れ企業担当者に対して行うことで、改めて自分自身の活動を振り返ることができ、大勢の前でパワーポイントを使用して発表する経験が大きな自信と共に自己成長に繋がった。
- ④ 職業興味検査（VRT・VPI）や一般職業適性検査（GATB）の結果を通じて、個々の職業興味領域や具体的な職業例を知ることができたという感想が多かった。また、職業興味度や自信度の結果数値から自己認識のヒントとし、就職活動に役立てたいと考えている学生やこの検査をきっかけに、キャリア支援課での個別相談を行う学生も増えた。この経験が高い能力要素を活かせる職業探索に進み、自己の持ち味と職業とのマッチング率を高める成果に繋がっている。
- ⑤ 職業対策 WEBB テスト「コンピテンシー診断」「自己認識」を深める職業興味検査、一般職業適性検査の実施により、自分の好きなことと何ができるかを測定し「自己認識」を深め、高い能力要素を活かせる職業探索に進むことが可能となった。この検査結果を個別面談の際にも活用し、職務の内容や仕事の役割に対して期待される成果を導く上での行動特性に繋がるようアドバイスをしている。
- ⑥ 1年次授業科目において、外部講師による授業や、ワークショップを積極的に導入した授業を行ったことで、学生それぞれの漠然としていた職業観がより明確となった。学生アンケートには「自分の将来と向き合うよいチャンスだった。これを機に目標を定めて努力していこうと思った。」などのコメントもあり、低学年からのキャリアデザインを描きやすくするための一助となった。
- ⑦ 「キャリア委員会」の中に「キャリア教育評価委員会」を設置することにより、「教職員一体による」という意識改善が図られた。1年次のゼミナールにおけるキャリアガイダンスに参加した教員のアンケートには「早い段階から1.2年生へのキャリアガイダンスを行うことの重要性を改めて実感しました。」「授業時でも折にふれて、自分の将来について考えることを指導する際にデザインガイド1を活用させていただいている。」など教員が大学生活と将来計画の参考としてガイドブックを使用されていることが伺えるようになってきた。本学におけるキャリア教育の改善と学生の自立意識の向上に繋がる一助に繋がっている。